

12月の衛研検査情報

～トピックス～



健康茶中のセンナ検出に関する問題点の変遷

近年、健康志向の高まりなどから、ダイエットに関心がある人達や、瘦身願望の高い人達が増えています。通信販売や健康食品売り場には、「無理をせず簡単に痩せられる」とうたった健康食品がみられ、「健康茶」、「減肥茶」などのティーバッグの形で売られている商品もみられます。しかし、医薬品ではない食品に劇的な効果を期待するのは間違いであり、「飲むだけで痩せられる」というのは誇大広告なのではと指摘されています。実際に効果を持たせるためにこのような健康茶の中には、「センナ」などの医薬品が含まれていることがあります。

医薬品として扱われる「センナ」はチンネベリセンナまたはアレキサンドリアセンナという植物の小葉を指しており、下剤として用いられます。食品である健康茶の中に、医薬品である「センナ」が入っている場合は、薬事法違反になります。一方で、茎は食品として扱われるため、センナの茎のみが入っているお茶であれば、薬事法上問題ありません。

薬事担当では、平成10年から健康茶を中心に、ダイエットをうたったいわゆる健康食品について検査をしています。今月号では、健康茶中のセンナを検出する際の問題点について解説しています。

主な内容

- ◆平成12年頃までは、外観や特有のにおいなどで、センナの葉を確認するのは比較的容易でした。
- ◆平成12年以降は、外観でセンナの葉を確認するのが難しくなってきました。
- ◆平成21年以降は、センナの葉と同じ成分を含む「カシヤ・アラタ」が表示されているものがあり、問題視されています。

横浜市における自殺の現状（平成19年～21年）

日本の自殺者数は、平成10年に一挙に8千人余り増加して3万人を越え、その後も高い水準が続いています。横浜市においても全国と同様に平成10年に急増し、その後現在まで年間700人前後で推移しています。

感染症・疫学情報課では、横浜市における自殺の現状を把握することを目的として、「人口動態統計」と「神奈川県警本部から提供された自殺統計資料」を解析し、ホームページ等で公開しています。今月号では、平成19年から21年の横浜市における自殺の現状について解説しています。

主な内容

- ◆近年、男性の自殺者が全体の7割程度を占めています。
- ◆どの月、時間帯でも自殺者数が「0」のときはなく、通年的な対策が必要と考えられます。
- ◆男性の40歳代無職者と女性の20歳代無職者の自殺死亡率が高い値を示しました。
- ◆女性は原因・動機の上位5位までが「健康問題」であったのに対し、男性は上位3位以降に「経済・生活問題」が挙げられていたのが特徴的でした。



詳しくは横浜市衛生研究所ホームページを御覧ください
http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/inspection_inf/



横浜市衛生研究所では、所内で行われた試験検査等の結果に解説を加え、毎月、「検査情報月報」として報告しています。